

## 市民意見の概要とそれに対する本市の考え方

## ＜参考＞区分について

- A 京都市レジリエンス戦略（案）に反映させるもの（251件）  
 B 京都市レジリエンス戦略（案）に記載済み又は趣旨に含まれているもの及び京都市レジリエンス戦略の推進に当たって参考とするもの（824件）  
 C その他市政運営等において参考とするもの（62件）

1 レジリエンス戦略（案）全体について			
御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
(1) レジリエンスの意義や考え方に関すること			
<p>【重要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状がいつまでも続くわけではないので、徐々に変化する社会にこそレジリエンスが必要。</li> <li>・ 何が起こるか分からない今、レジリエンスという一つの考えをもって、物事を考えることは良いと思う。</li> <li>・ 人間関係が薄くなってきている中でレジリエンスという考え方はとても大切だと思った。</li> <li>・ まちのためには、個人もレジリエンスが重要である。困難にあった時こそ必要。</li> <li>・ レジリエンス戦略の策定に賛同する。</li> <li>・ 是非とも当該構想が具体化し、一日も早く実現化されることを期待する。</li> <li>・ 京都が京都であり続けるためにはレジリエンス戦略は必要だと思う。</li> </ul> <p>など</p>	176	B	<p>あらゆる危機を乗り越え、発展し続けられる都市、「レジリエント・シティ」の実現のためには、行政のみならず、市民等の皆様に「自分ごと」「みんなごと」として受け止めていただき、一体となって取組を進めていくことが不可欠だと考えています。そのため、今後とも、あらゆる機会を捉えて、レジリエンスの考え方を発信し、浸透していくよう取り組んでまいります。</p>
<p>【周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域的に、レジリエンスを知ってもらう方法を考えることが必要。</li> <li>・ 周りの人にレジリエンスを知って活動してもらえる認知度がさらに必要。</li> <li>・ 初めてレジリエンスというものを聞いたが、内容的にはとても面白いので、もっと広める必要がある。</li> <li>・ なかなか言葉自体が定着していない気がするので、SNS等を通じた普及啓発が必要である。</li> <li>・ もっと京都中に「レジリエンス」を広める必要がある。知名度が低いと感じる。</li> </ul> <p>など</p>	84	B	<p>あらゆる危機を乗り越え、発展し続けられる都市、「レジリエント・シティ」の実現のためには、行政のみならず、市民等の皆様に「自分ごと」「みんなごと」として受け止めていただき、一体となって取組を進めていくことが不可欠だと考えています。そのため、今後とも、あらゆる機会を捉えて、レジリエンスの考え方を発信し、浸透していくよう取り組んでまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>【表記・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カタカナでは馴染みにくい。</li> <li>なぜレジリエンスなどという横文字を使うのか理解に苦しむ。もっとわかりやすい日本語で表現すべきだ。一目で分かる表題をつけるべきである。</li> <li>レジリエンスという言葉に馴染みが薄く、理解しにくいので、京都風の表現を用いるとよいのではないか。</li> <li>レジリエンスという言葉に馴染みがないので、なにか愛称などがあつたほうがいいのではないか。</li> <li>レジリエンスという言葉の意味が分からず、市民の方々も考えようと思わなくなるのではないか。</li> <li>レジリエンス戦略という名称には違和感を感じる。レジリエンスの「向上」または「強化」の戦略ではないか。</li> </ul> <p>など</p>	91	A	<p>「レジリエンス」というカタカナのみでは、その趣旨が十分に伝わらないとの御意見を踏まえ、理解しやすい表現等について検討いたします。また、今後とも、あらゆる機会を捉えて、レジリエンスの考え方を発信し、浸透していくよう取り組んでまいります。また、レジリエンス戦略に副題を追記しました。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(2) レジリエンス戦略に関すること</p> <p>【100RC】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「100のレジリエント・シティ」プロジェクトに参加する世界100都市の1つに選ばれなければ、レジリエンス戦略を策定しなかったのか。</li> <li>ロックフェラー財団から補助金が市に交付されることで、戦略が進むのか。</li> <li>ロックフェラー財団に選定されたら、なぜ京都市は受けるのか不明。既存事業の枠組みでもっと連携を図る方が効率的かつ効果的であり、他にもっとやるべきことに人員を割くべきである。</li> </ul>	3	B	<p>都市の持続可能性については、官民間わず、従来から多くの分野で重要な課題として取り組まれてきましたが、今回の選定を契機に、「レジリエンス」というキーワードにより、複数の分野間のつながりと広がり意識して取り組むことの重要性が明確になったと考えます。</p>
<p>【戦略の記載方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に、危機を煽るような記述が多く、明るい未来のイメージを抱けない。将来に向けて、前向きに歩いていけるモチベーションとなるような、表現にならないか。</li> <li>「危機」という語感が強いので、前進や希望を感じる言葉を使った方が良い。</li> <li>戦略の中で「レジリエンス」と言う言葉の説明が一定していない。部分部分で異なる書き方がされており、非常にちらかっている印象を受ける。</li> <li>「危機」と「課題」も本来は異なるものと思うが、同じような使い方がされている。</li> <li>レジリエンス戦略が何を指すのかを冒頭に記載すべきである。</li> <li>全体的に「等」が多い。</li> </ul> <p>など</p>	11	A	<p>いかなる危機に瀕しても、しなやかに対応し、以前よりもより良く回復しようとする態度や考え方のことを「レジリエンス」と説明しています。単に危機への対処に留まらず、前を向いて大きく回復するという意味を含んでいますので、今後の戦略の周知等において工夫してまいります。また、内容が分かりやすくなるように、文章等を修正しました。</p>
<p>【戦略の担当所属】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、「教育」担当ではなく、「防災」担当が戦略を進めているのか。災害に特化しているのか。</li> </ul>	1	B	<p>京都市レジリエンス戦略は、地震や台風など自然災害等のみならず、人口減少や地域コミュニティの活力の低下等に対しても備えるものです。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(3) 既存計画等との関連性に関すること</p> <p>【SDGs, 「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略との関連性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGsとレジリエンス戦略の関係は、枠組みが違うということか。同じようなものばかりで分かりにくい。</li> <li>・ レジリエンス, SDGs, 京都創生総合戦略の関係性が難解である。</li> <li>・ 「レジリエンス」と「持続可能性」の違いが分かりにくい。</li> <li>・ SDGsと京都創生総合戦略との関係が複雑で、レジリエンスの主体性, 独自性が感じられない。</li> <li>・ SDGsや地方創生と密接に絡んでいるため一緒に進めたほうが良い。概念も捉え直して, 3つ一緒に市民が捉えやすくした方が活動もしやすくなる。また, 実務レベルで実効性のある取組が必要である。</li> </ul> <p>など</p>	12	A	<p>人口減少社会をはじめ, あらゆる危機を克服し, 「持続可能な社会の実現」を追求するという点において, 「京都創生総合戦略」, 「SDGs」, 「レジリエンス」は方向性が重なります。</p> <p>京都創生総合戦略においては, 人口減少に歯止めをかけることを目指しますが, レジリエンス戦略では, 人口減少を想定して備えることも含みます。</p> <p>また, 行政分野を超えた政策の融合を図る等, レジリエンス戦略に取り組むことで, SDGsの各目標を横断した, 京都ならではの質の高い取組になると考えております。</p> <p>この旨, 追記しました。</p>
<p>【既存計画との関連性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あえてレジリエンス戦略を策定する意味が分からない。既存計画で良いのでは。</li> <li>・ レジリエンス戦略が従来の施策に対してどのような位置付けなのか, 何が新しいのかよく分からない。</li> <li>・ 防災・減災等の計画とどう違うのか理解が難しい。</li> <li>・ 既存の計画や戦略との住み分け, 違いが不明確。具体的にどの様な違いがあり, 本戦略を策定することにより, これまでとどの様に変わっていくのかが漠然としているため, よく分からない。京都創生総合戦略の改訂では駄目なのか。</li> <li>・ 元々京都市の政策は, 持続可能であることを目指しており, レジリエントなまちづくりを進め, それぞれの分野で引き続きの課題も残されている。そのような状態で, レジリエンス戦略をわざわざ作成する必要性と目的・効果が不明である。</li> </ul> <p>など</p>	10	B	<p>レジリエンス戦略は, 現在の基本計画のもとで取り組んでいる施策に対して, 改めて「レジリエンス」の視点で横串を入れ, 政策の点検・強化を図るものです。戦略に掲げる「レジリエンス」の考え方は, 将来にわたって人々がいきいきと暮らせる, 魅力と活気に満ちた京都を支えるものとして, 次期基本計画等, 今後策定する行政計画にも反映していく予定です。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<b>2 レジリエンス戦略の目的、手段について</b>			
(1) レジリエンス戦略の目的に関すること			
<p>【目的に賛同】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や課題等をまとめたということでは意味があると思う。</li> <li>・ 目的が素晴らしい。しなやかで力強い京都を引き継いでいってほしい。</li> <li>・ 先行き不透明な時代において、レジリエンスをもったまちを目指していくという目的は良いと思う。</li> <li>・ 京都が京都であり続けることは非常に大事である。この歴史を残していく必要がある。</li> </ul> <p>など</p>	16	B	<p>京都は、千年以上の歴史の中で幾多の深刻な危機に直面しましたが、その都度先人は、単に危機に対して抗うだけでなく、変化を恐れず新しいことを取り込みながら、しなやかに乗り越えてきました。それが京都らしさの源泉であり、歴史の中に見られる「レジリエンス」と言えるものです。先行き不透明な現在において、今後とも京都がそのような力を持ったまちであり続けることを目標に据えて、「レジリエント・シティ」の実現に取り組みます。</p>
<p>【目的に異論】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千年前から京都はレジリエンスを実践してきたということと、これからレジリエント・シティ実現を目指すということの関係が良く分からない。結局今の京都はどうだと評価しているのか。</li> <li>・ 「京都が京都であり続ける」とは、どのような状況なのか、わかりづらい。京都はいつも変化していた都市ではないのか。</li> </ul> <p>など</p>	4	B	<p>京都は、千年以上の歴史の中で幾多の深刻な危機に直面しましたが、その都度先人は、単に危機に対して抗うだけでなく、変化を恐れず新しいことを取り込みながら、しなやかに乗り越えてきました。それが京都らしさの源泉であり、歴史の中に見られる「レジリエンス」と言えるものです。先行き不透明な現在において、今後とも京都がそのような力を持ったまちであり続けることを目標に据えて、「レジリエント・シティ」の実現に取り組みます。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
(2) レジリエント・シティ実現のための手段に関すること			
<p>【手段全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レジリエント・シティになるための方法が良く考えられていると感じた。</li> <li>・ 「ピンチをチャンスに変える発想の転換」は良い。</li> <li>・ 「地域の絆」の強化は良いと思う。なぜなら、普段から地域につながりを持っていると、いざ災害が起きた時に、お互いに助け合えるからである。</li> <li>・ それぞれの課題を個々に考えるだけでなく、多くの人で共有し、解決方法を探ることが重要。</li> <li>・ 一人一人が「自分ごと」としてとらえることが必要。</li> </ul> <p>など</p>	29	B	<p>あらゆる危機を乗り越え、発展し続けられる都市、「レジリエント・シティ」の実現のためには、行政のみならず、市民等の皆様に「自分ごと」「みんなごと」として受け止めていただき、一体となって取組を進めていくことが不可欠だと考えています。</p>
<p>【レジリエンスの視点で政策を点検・強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抽象的でわかりにくい。</li> <li>・ 行政の仕事は全てのことには自由が効くわけではないのに、新しい発想がどこまで通用して、どのくらい時間をかけて実現されるのだろうか疑問に感じた。</li> <li>・ 「想定外の克服」という記載があるが、もう少し具体的で達成しやすい目標を立てた方が良いと思う。</li> <li>・ 各部署が連携した方が良いとは思いますが、効率性が下がる場合もあるということに懸念を抱く。</li> <li>・ 行政自ら縦割りをなくす、目に見えるプロジェクト又は組織をつくってほしい。同じようなことを別の部署が考えているのはもったいない。</li> <li>・ 市民の声に常に耳を傾けるべきである。</li> <li>・ 職員自身が「レジリエンス」について理解しているのか疑問である。</li> </ul> <p>など</p>	26	A	<p>本戦略の推進に当たって、限りある行政資源を、「レジリエント・シティ」の実現のためには、真に必要な施策等に投入し、市民の皆様との協働により、着実に成果に結びつけていく必要があります。</p> <p>行政として取り組むべき「レジリエンスの政策強化のための視点」については、説明を補足しました。</p> <p>さらに、行政の縦割りの解消や連携強化のためには、本市職員においても、レジリエンスの視点を理解することが必要であると考えており、「本市の推進体制」に「担い手育成」の項目を追記しました。</p>
<p>【京都が誇る「地域力」「市民力」の更なる強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参画が必要である。</li> <li>・ レジリエント・シティの実現のためには、行政だけでなく、市民の取組が重要であると思う。</li> <li>・ 京都は歴史のあるまちなので、そこに住んでいる人がそのことを改めて認識して生活していくべき。</li> <li>・ 若者に対して、自助努力や地域についてもっと知る機会を増やすべき。</li> <li>・ 大学と連携することで「レジリエント・シティ」の実現の大きな力になると思う。</li> <li>・ 今後、元気な年配者が増えるので、この方たちを少しでも「力」にできないだろうか。</li> <li>・ 手段が抽象的で理解できない。具体的な方法を考える必要がある。</li> <li>・ 「市民ぐるみ・まちぐるみで、京都が誇る市民、地域等の力がたゆまないように強め続ける」というのはいかにもしんどい。強め続けることができない弱者へのまなざしをもちながら、全体としては強め続けていく、ということならまだ良いと思う。</li> <li>・ 誰とどのように協力していけば良いかが分からない人が多いと思う。</li> </ul> <p>など</p>	49	A	<p>あらゆる危機を乗り越え、発展し続けられる都市、「レジリエント・シティ」の実現のためには、行政のみならず、市民の皆様「自分ごと」「みんなごと」としての取組が不可欠です。「レジリエンス」の理念を御理解いただくと共に、今後とも、市民の皆様と行政が一体となって、できることから取組を進めていただきたいと考えています。市民の皆様により理解していただきやすいように、より具体的な取組を追記しました。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<b>3 京都市におけるレジリエンスの課題や方向性、具体的な取組について</b>			
<b>(1) 自然災害等に関すること</b>			
<p><b>【災害への備え等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害にしなやかに対応するために準備をすることが大切だと思う。</li> <li>・ 自然災害の全てに備えることは不可能。先人の知恵を生かすことが重要だと思う。</li> <li>・ 人々の災害に対する認識があまりなく、実際に、災害に遭った人たちしか災害の過酷さを知らないため、防災をさぼってしまう。</li> <li>・ 突発的に災害が起きてしまった際には、対策ができていのかどうか気になる。</li> <li>・ 近所を見渡しても、防災対策をしていない。</li> <li>・ 普段からの訓練が重要である。</li> <li>・ 自力で地域の避難所まで移動できない場合等に備え、普段から近隣住民、行政がその事実を把握しておく必要がある。</li> <li>・ 備蓄は必要。災害時の情報をきちんと取るべき。災害時に備えて訓練も必要。</li> <li>・ 普段からハザードマップなどを用いて、避難経路や避難場所の確認をしておく必要がある。</li> <li>・ 災害時には、歯磨きがおろそかになりやすく、様々な病気になる可能性があり、口腔ケアの大切さを普段から伝えるべきである。</li> </ul> <p>など</p>	85	B	<p>いつ災害が起こってもおかしくない状況の中、各々が日頃から意識して災害に備えておくことが重要です。近所の人とあいさつするといった、普段から何気なく行っていることが、災害時に声を掛け合い命を守ることにもつながるなど、それを意識しておくことで、効果が高まります。昨年の大阪府北部地震をはじめとする一連の災害を経験し、市民の皆様の防災への関心が高まっているこの機も活かし、これらの経験を「自分ごと」として捉え、ハザードマップの確認や家具の転倒防止、家庭内備蓄の推進等、災害への備えの重要性を再認識し、実践していただけるよう、一層の意識喚起に努めてまいります。</p>
<p><b>【消防職員等の担い手育成及び採用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害などの危機に備え、消防職員をはじめとした担い手育成や採用が必要である。</li> </ul>	1	B	<p>人口減少社会において、様々な災害にしなやかに対応できる「レジリエント・シティ」の実現のためには、消防職員の採用・育成はもとより、学校等と連携した将来の担い手育成や地域に密着した消防団の充足、自主防災組織の円滑な運営及び自主的な防災活動の活性化が必要であると考えており、引き続き取組を進めてまいります。</p>
<p><b>【文化財】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然災害はより一層激しさを増し、多くの文化財や美しい景観が消失していくのではないかと危惧する。</li> <li>・ 京都には重要文化財である神社や寺、木造建造物が数多く点在しているので、体制作りを早急に進めるべき。</li> <li>・ 京都は重要文化財が多いので、災害から守る取組を強化する必要がある。</li> </ul>	3	B	<p>京都市内には、世界文化遺産をはじめ、国宝、重要文化財、重要伝統的建造物群保存地区など、数多くの文化財があります。本市では、これらの文化財を火災等の災害から守るため、自主防火管理の徹底や消防訓練の実施など、様々な文化財の防火・防災対策に取り組んでいます。</p>
<p><b>【建物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観を気にしつつ、災害に強い建物を作れるのか。</li> <li>・ 「古い建物の耐震性」が必要ではないか。</li> <li>・ 決して地震に強い都市とは思えない。人命優先ならば建物の地震対策が喫緊の課題である。</li> </ul>	3	B	<p>本市では、昭和56年以前の旧耐震基準建築物の耐震化に取り組んでいます。様々な災害においてもしなやかに対応していく「レジリエント・シティ」の実現に向けて、京都らしい町並みの保全に配慮しながら、歴史都市にふさわしい防災対策を進めていくことが重要であると考えております。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>【インフラ・通信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路網の整備や被災箇所、被災の状況が正確にわかる機器の整備が必要である。</li> <li>自然災害やテロ等に備えて、インフラ等の整備を行う必要がある。</li> <li>災害時の通信手段の強化が必要である。</li> </ul> <p>など</p>	6	B	<p>本市では、これまでから、東日本大震災における教訓等を踏まえ、専門家や市民の皆様と徹底した議論を重ねて洗い出した130項目を超えるハード・ソフト両面による防災対策を全庁を挙げて推進してきました。</p> <p>平成29年度には、この間の熊本地震をはじめとする近年の災害から見えてきた新たな課題等も踏まえ、それまでの取組を検証し、項目の見直し、充実、追加等を行ったうえで、継続して取り組んでいるところです。</p> <p>加えて、本市の防災対策に関する計画等を総合的かつ計画的に推進するための指針となる「京都市国土強靱化地域計画」も策定し、鋭意推進しているところでもあります。引き続き、「災害に強いまち」の実現に向けて、全庁を挙げて取組を推進してまいります。</p>
<p>【ブロック塀】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他都市でブロック塀で小学生が亡くなったこともあり、そういった危険のある建物や施設・設備の見直しが必要ではないかと思う。</li> </ul>	1	B	<p>危険性のある公共施設のブロック塀については、撤去を原則として、迅速に対応を進めております。</p> <p>また、建物や土木施設等本市の公共施設については、老朽化により大規模な改修や建替え等が必要な施設も多くなってきています。</p> <p>「京都市公共施設マネジメント基本計画」に基づき、公共施設の計画的な保全、維持管理等に努めてまいります。</p>
<p>【大学との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域だけで取り組むことは難しいと思うので、大学などと連携して、避難所の開設などをすれば良いのではないかと。</li> </ul>	1	B	<p>「レジリエンス戦略」の展開に当たっては、レジリエンスの原動力として、「地域力」を高めることが不可欠であり、これまで行ってきた地域コミュニティ活性化の取組に加え、特に、これまで地域活動に参画する機会が少なかった現役世代や、企業、大学、NPO等を巻き込んでいくことが必要であると考えています。地域に関わる方々の相互の連携を深め、強い地域力に支えられた「レジリエント・シティ」の実現に取り組んでまいります。</p>
<p>【国土強靱化計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国の進める「国土強靱化計画」を踏まえ、地方都市（京都市）レベルでの防災力向上を目指す必要がある。</li> </ul>	1	B	<p>本市では、これまでから、東日本大震災における教訓等を踏まえ、専門家や市民の皆様と徹底した議論を重ねて洗い出した130項目を超えるハード・ソフト両面による防災対策を全庁を挙げて推進してきました。平成29年度には、この間の熊本地震をはじめとする近年の災害から見えてきた新たな課題等も踏まえ、それまでの取組を検証し、項目の見直し、充実、追加等を行ったうえで、継続して取り組んでいるところです。加えて、本市の防災対策に関する計画等を総合的かつ計画的に推進するための指針となる「京都市国土強靱化地域計画」も策定し、鋭意推進しているところでもあります。引き続き、「災害に強いまち」の実現に向けて、全庁を挙げて取組を推進してまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>【他府県等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣府県や近隣市町村と災害に対する共助・協力関係を構築する必要がある。</li> <li>・ 災害時における、医療分野（医科，歯科）との連携を更に進め，情報連携の確立が重要ではないか。</li> </ul>	2	B	<p>大規模な災害が発生した場合等，本市単独での対応や復旧が困難な場合，総務省が主導する「被災市区町村応援職員確保システム」，政令指定都市や関西広域連合などによる支援や，他の自治体や様々な企業，団体等との間で，380件に及ぶ災害時応援協定を締結しています。</p> <p>その種類は，行政間の相互応援をはじめ，食料，水，生活用品等の物資の供給・輸送や医療救護，災害復旧など，多種に及んでおり，医療関係団体等とも，訓練など様々な機会を通じて連携を図っております。引き続き，必要に応じた協定の拡充に努めるとともに，非常時に円滑に協調できるよう，平常時から協定締結事業者等との連携を深めてまいります。</p>
<p>【北部山間地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時に山間部が孤立しがち。支援ネットワークの構築が必要である。</li> <li>・ 北部山間地域は災害時に救助が遅れる。行政はそういったところをサポートしてほしい。</li> </ul>	2	B	<p>山間部地域における停電や道路寸断による情報の途絶等への対応として，山間部の区役所出張所への非常用発電機の配備や，避難所も含めた衛星携帯電話の配備を進めています。また，孤立対策として，避難所等への食料等の物資備蓄も進めるとともに，備蓄のためのスペースが確保できない避難所については，災害用備蓄コンテナを設置し，物資を保管する等の対策も順次進めています。引き続き，関係局区等が連携して対応を進めてまいります。</p>
<p>【備蓄の義務化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他力本願をする人たちがいるため，備蓄を義務化してはどうか。</li> </ul>	1	B	<p>本市では，平成26年3月に策定した「京都市備蓄計画」に基づき，食料等の公的備蓄を進めるとともに，機会を捉えた啓発等による市民備蓄の推進にも取り組んでいます。</p> <p>災害発生時には，「自分の身は自分で守る」こと，いわゆる「自助」がまずは重要となってきます。昨年の大阪府北部地震をはじめとする一連の災害を経験し，市民の皆様の防災への関心が高まっているこの機も活かし，これらの経験を「自分ごと」として捉え，家庭内備蓄の推進はもとより，ハザードマップの確認や家具の転倒防止等，災害への備えの重要性を再認識し，実践していただけるよう，一層の意識喚起に努めてまいります。</p>
<p>【ミサイル対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミサイル対策はどうなっているのか。</li> </ul>	1	B	<p>弾道ミサイル等が発射され，本市を含む地域に飛来する可能性がある場合は，国からJアラート（全国瞬時警報システム）により，直接個人の携帯端末に緊急速報メールが送信され，その内容に従って避難等の行動をとっていただくこととなります。</p> <p>また，万が一，本市に落下した場合等には，国の指揮の下で，住民の避難，救護，武力攻撃災害への対処についての具体的な対応方法等を定めた「京都市国民保護計画」に基づき対応することとしております。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<b>【避難場所】</b> ・ 避難場所の小学校の位置が低く、水没する危険を感じる。避難場所が適正か否かを再確認してほしい。	1	B	「指定避難所」及び「指定緊急避難場所」については、原則として、洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域など危険と想定される区域外の公共施設の指定を進めており、区域内にある場合は、可能な限り、区域外の施設を代替施設として指定するよう努めています。しかし、代替施設の確保が困難な地域においては、安全確保のために、洪水浸水想定区域内の施設の場合は、垂直避難が可能な施設を、土砂災害警戒区域内の場合は、斜面と反対側に避難場所を有する施設を指定することに努めています。引き続き、民間施設を含めた避難場所の確保に努めてまいります。
<b>【クラウドファンディング】</b> ・ 大規模災害に備え、平時から災害対応のプレイヤーを発掘するとともに、クラウドファンディングを活用して資金調達し、プレイヤーを育成してはどうか。	1	C	本市では、「まちづくり・お宝バンク」や「区民提案・共汗型まちづくり支援事業」において、地域におけるまちづくりの支援等を行っております。防災面においてもこうした取組と連携を深めつつ、市民の皆様と協働して地域防災力の向上に努めてまいります。
<b>【救助体制】</b> ・ 京都市内のどこで災害が発生しても72時間以内に救助できる体制を整えておく必要がある。	1	C	いつ災害が起こってもおかしくない状況の中、消防等による救助の手が届かない可能性もあるため、各々が日頃から意識して準備しておくことが重要です。本市においても、関係機関等と連携を強化するなど、災害に備えた対策を行っておりますが、市民の皆様に対しても、災害への備えの重要性についての意識喚起を一層促進してまいります。
<b>【災害ボランティア】</b> ・ 災害時や災害予防のためのボランティア（無償の）に頼りすぎるのはこれから厳しいのではないかと思う。 ・ ボランティアは当たり前ではないという意識で進めていってほしい。 ・ 消防団のように、災害時のボランティア（自主防災会等）にも資格と報酬を与えて、しっかりと責任を持って活動をしていただくべき。	3	B	災害が発生した際、被災者へのきめ細やかな支援や、被災地の迅速な復旧・復興を図るうえで、ボランティア活動の役割が大変重要ですが、意欲を持って持続的に取り組んでいただけるよう、その在り方については、引き続き点検・検討してまいります。
<b>【BCP】</b> ・ 地域企業のBCP策定はレジリエンスである。 ・ 多くの市民が従事する京都市内の組織のBCP対策に対して、具体的な支援や施策を提示してはどうか。	2	B	本市では、事業者の皆様が災害時でも継続的に事業を続け、顧客や取引先に安心してもらえるよう、以前から、BCP(事業継続計画)の普及に取り組んでいます。今後も、第3章の「更なる取組の検討案」に記載のとおり、「京都市地域企業の持続的発展の推進に関する条例」に基づき、地域企業のBCP策定に係るセミナーを開催するなど、具体的な支援を行ってまいります。

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p><b>【観光客への対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時に英語での情報を探すのに苦労した。外国人観光客のためにも、災害時の英語表記などの説明が必要。</li> <li>・ 観光客への対応として、発災時にも協力してもらえるような在留外国人等と交流し、日頃から必要な情報の共有を図ってはどうか。</li> </ul>	2	B	<p>本市が取り組んできた災害時における帰宅困難者対策をベースに、近畿運輸局が「地震発生時等災害時における訪日外国人旅行者の避難誘導マニュアル」を作成しました。</p> <p>また、平成29年4月からは、「京都市・帰宅支援サイト」を多言語化（英・中・韓・やさしい日本語）し、平成30年4月には、緊急避難広場の位置を示した「清水・祇園地域」、「嵯峨・嵐山地域」及び「京都駅周辺エリア」を対象としたガイドブックについて、その他地域を含めた、緊急避難広場を掲載した「京都市災害時帰宅困難者ガイドマップ（多言語化対応）」としてリニューアルしており、災害時において、外国人観光客にも情報が伝わるように取組を行っています。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(2) 人口減少、少子高齢化に関すること</p> <p>【人口減少、少子高齢化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少、少子化が課題である。</li> <li>・ 都市としての活力を保っていくため、まずは人口減少に対して取り組むかが重要ではないかと思う。</li> <li>・ 人口減少にはレジリエンス戦略で対応できるのか。</li> <li>・ 人口減少を危機として捉えるのではなく、是として、あるいは少なくとも前提としてこれに応じた対策を取るというスタンスに立つべき。</li> <li>・ 日本全国で先駆けて、出生率や人口の社会増の高い都市になる手法を検討してもらいたい。</li> <li>・ みんなが幸せになれる人口数や世代間の構成比率が自然に構築されるような社会を目指せるかを目的としてはどうか。</li> <li>・ 若い世代が高齢者と一緒に祭などに取り組む、考えることが必要ではないか。</li> <li>・ 社会が高齢者と関わる機会を増やすべき。高齢者の知識と技術を若者世代に伝えることで、幅広い世代で協力でき、みんなが納得するまちをつくれるのでは。</li> <li>・ 年配の方々は普段から若い人との関わりを持つことが重要。</li> </ul> <p>など</p>	39	B	<p>本市では、人口減少の歯止めと、その大きな要因である東京一極集中の是正を目指し、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略を策定し、地域の皆様をはじめ、NPO、企業、大学等と京都市が、危機感と同時に夢や使命感を共有しながら、共に「自分ごと」「みんなごと」として、人口減少問題に取り組んでいます。これに加えてレジリエンス戦略は、人口減少を前提としてこれに向き合うという態度や考え方を含んでいます。また、人生100年時代を迎え、人々がいつまでも健康で、より長く地域や社会と関わりながら多様で豊かな人生を送ることが重要であり、これらの相乗効果を狙って取り組むことにより、誰もがいきいきと活躍できる「レジリエント・シティ」の実現を目指してまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(3) 子育て、担い手育成に関すること</p> <p>【子育て】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子供を育てやすいまちにするために、もっと保育施設を増やす必要がある。</li> <li>・ 子供を育てやすい政策に取り組んでいるのか。</li> <li>・ 子供の成長や孫の成長を見ることは素晴らしいことであり、もっと若い人に伝える必要がある。</li> <li>・ 女性は、働くことと子育ての間で迷っていると思う。専業主婦を増やし、行政からの手厚い施策が必要だと思う。</li> <li>・ 「学歯制度」などの素晴らしい制度を引き続き行い、医療が充実した都市であるということを再認識できる状況を続けてほしい。</li> </ul> <p>など</p>	7	B	<p>本市では、子どもたちの今と未来のため、市民共通の規範として制定した「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都はぐくみ憲章）」の理念のもと、市民・地域ぐるみで子育てを支え合い、京都の未来を託す子どもたちを健やかで心豊かに育むまちづくり、「京都で育ててよかった」、「京都で子育てをしたい」と思えるまちづくりを進めています。市民の皆様とともに、子どもの成長段階に応じた、切れ目のない、きめ細かな取組を進めることで、人が育つ「レジリエント・シティ」の実現に向けて取り組んでまいります。</p>
<p>【社会的弱者とSDGs】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGsの目標でもある、誰一人取り残さないという観点から、子どもの貧困対策や犯罪、非行を起こした若者の立ち直り支援などの視点も重要ではないか。</li> <li>・ 社会的弱者にどう手を差し伸べていくかを検討してほしい。それがSDGsの「誰一人取り残さない」につながる。</li> <li>・ レジリエンスの方針の中に人権尊重の視点が必要なのではないか。そのことが、あらゆる人を育てることにつながると思う。</li> </ul>	3	B	<p>本市では、貧困家庭の子どもや青少年に対する支援を推進するために必要な支援策等を掲げた「京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」を策定したり、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする、「”社会を明るくする運動”京都市推進委員会」の下で取組を進めるなど、社会的弱者等に対する取組を進めています。</p> <p>あらゆる人がいきいきと暮らせる「レジリエント・シティ」の実現に向け、既存の取組をレジリエンスの視点で点検・強化することにより、京都ならではの質の高い取組になり、SDGsの目標達成にもつながると考えております。</p> <p>引き続き取組を進めてまいります。</p>
<p>【担い手育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分ごと」として考える人が少なく、無関心が広がっている中で、いかに楽しく、面白く興味を持って取り組むことができるか、そのような担い手を育成するかが大切ではないか。</li> <li>・ 子供の教育の観点が抜け落ちている。教育の分野で、京都市の小中学校を出たら、レジリエンスについて一定身につけている状態にするなどは考えていないのか。</li> <li>・ 「自分自身を向上」を具体的に取り組むに当たって、市営保育所はじめ保育関係、幼稚園関係と連携していくという取組はいかがか。</li> <li>・ 日本では社会奉仕をしても評価されない。学校での教育が重要である。</li> </ul>	4	B	<p>「レジリエント・シティ」の実現に向けて、次の世代の担い手を育成することは、必要不可欠な取組です。今後、市民の皆様や学校等の関係機関にも御協力いただき、あらゆる機会を捉え、「レジリエンス」の考え方の普及に取り組むとともに、市民の皆様と行政が「自分ごと」、「みんなごと」として知恵や力を出し合い、取組を進めてまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(4) 地域コミュニティに関すること</p> <p>【地域コミュニティ全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内会に入らない人が多くて衰退している。自分一人では災害対応などもできない。</li> <li>・ どのような取組をすれば地域力というものを高めることができるのか分からない。</li> <li>・ 地域だけでなく子どもの親同士もつながる必要がある。</li> <li>・ 地域で楽しく取り組めるようなきっかけ等が必要と思う。</li> <li>・ 地蔵盆と区民運動会は、「こどもたちのために」というのが自他ともに大きな動機になっていると思う。</li> <li>・ 地域のつながりを保ち、高めていくためには、学校や公園が重要な場所になってくると思う。</li> <li>・ 「地蔵盆ができない」という問題なども生まれている。「レジリエント・シティ」の実現の為に、地域の力に頼りすぎるのは良くないのではないか。</li> <li>・ 京都市には、町内会や隣組といった地域社会の組織がすでに出来あがっている。これを基盤に最大限有効利用して、『共生社会』をいかに浸透させていくかを考える事が重要だと考える。</li> <li>・ 自治会以外のコミュニティを作ってはどうか。</li> <li>・ 近所付き合いが少ない。もっとお互いに声を掛け合うような組織や取組が必要ではないか。</li> </ul> <p>など</p>	85	B	<p>本市では、「京都市地域コミュニティ活性化推進条例」を制定し、自治会・町内会や事業者等との連携の下に、将来にわたって、地域住民が支え合い、安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティの実現に向けた取組を推進しています。</p> <p>災害時における自治会、町内会等をはじめとした地域コミュニティの重要性は広く認識されており、自治会・町内会等において日々取り組まれている様々な地域活動が、安心安全で住みやすい地域をつくり、「地域のレジリエンス」にもつながっているものと考えます。</p> <p>引き続き取組を進めてまいります。</p>
<p>【地域と転入者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他市他府県から来た人に対して、どのような受け入れ体制があるのか。</li> </ul>	4	B	<p>本市への移住を促進するため、相談窓口の設置・運営や、相談会等の開催など、総合的な移住促進に取り組んでいます。</p> <p>また、マンション新築や宅地開発により新たに転入される方などが、地域活動に参加・協力できるよう、地域と住宅関連事業者、本市とで連携して、自治会加入等に関して早期に協議する「転入者地域交流支援制度」を平成31年4月から運用するとともに、自治会・町内会への加入を呼び掛けるチラシを配布する等、取組を進めています。</p> <p>多様な主体の参画により地域コミュニティが活性化することが、「レジリエント・シティ」の実現につながるため、引き続き取組を進めてまいります。</p>
<p>【地域と学生との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が多いのに地域コミュニティへの参加が難しい。どのような取組があるのか。</li> </ul>	5	B	<p>本市では、大学や学生が地域と一体となっていくまちづくりや地域活性化の取組を一層推進したり、大学生・専修学校新入生向けに地域活動に関する情報等を提供する啓発チラシを各校で配布いただくなど、学生による地域参加の機会を設けております。</p> <p>地域コミュニティが活性化することで、様々な危機にしなやかに対応できる「レジリエント・シティ」の実現につながります。</p> <p>引き続き取組を進めてまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p><b>【地域と外国籍市民との関わり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国籍や文化の違いを越えて、外国人を地域に受け入れるのはとても難しいのではないかと。どのような受け入れ体制があるのか。</li> <li>・ 外国人の対応・対策が必要である。</li> <li>・ 京都市の治安向上、外国人対策などを行うことで、住みやすいまちにつながり、京都市の人口は増えるのではないかと。</li> <li>・ 外国人材が京都にも入ってくることを前向きに捉え、様々な背景を持つ市民が、国籍や文化の違いを越え、お互いに交流し、より質の高い市民生活を営むことができるよう、また、外国人材の人権が守られるよう、具体的な取組を設けるべきだと思う。</li> </ul> <p>など</p>	6	B	<p>本市では、外国籍や多様な文化的背景を持つ市民がくらしやすいまちづくりを促進するため、多言語による行政情報の提供・相談事業をはじめとするコミュニケーション支援や、生活支援を充実させるなどの取組を行っています。</p> <p>外国籍の方も、地域社会を構成する担い手であると考えており、多文化共生を推進することで、あらゆる人がいきいきと暮らせる「レジリエント・シティ」の実現に向けて取り組んでまいります。</p>
<p><b>【行政からの支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政から学区に予算をつけるなどして、学区単位で取り組めるようにしてはどうか。</li> <li>・ 町内会長に報酬を払い、役割をはっきりさせてはどうか。</li> <li>・ 地域コミュニティ活性化の取組については、行政からの助成金が必要である。</li> </ul>	3	C	<p>地域コミュニティを活性化するために、地域の皆様の支え合いの精神に基づく自主的かつ活発な地域活動が行われることが重要であると考えております。いただいた御意見については、今後の参考にさせていただきます。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(5) 文化の継承や活用に関すること</p> <p><b>【文化全般】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都の文化をあらためて見直し、大切にすることが必要である。</li> <li>・ 京都が私たちの暮らしに合わせて変わるのでなく、私たちが京都に合わせてすることが大切。京都の文化の大切さをもう1度学ぶ必要がある。</li> <li>・ 文化による地域のつながりも大切。</li> <li>・ 日本の文化が多くある京都は、その面において、他の都道府県よりも魅力的であると思う。しかし、グローバル化の中で、京都らしさが失われつつある。</li> </ul> <p>など</p>	15	B	<p>本市では、文化芸術と産業、観光、まちづくり、教育、福祉など関連分野との連携を図り、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市を目指し、文化を基軸とした市政運営の方針としています。レジリエンス戦略では、「文化」を、様々な世代や利害関係者を結びつけ、都市の基礎を形づくる重要なキーワードであると捉えています。</p>
<p><b>【寺院・神社の減少】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宗教から離れる人が増え、寺院・神社が減少していることも考えた方がよいのではないか。</li> </ul>	1	C	<p>世界的な歴史都市、宗教都市である本市として、寺社仏閣の減少やそれに伴う精神文化の衰退も大きな課題です。いただいた御意見については、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>
<p><b>【伝統文化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都の良さ（西陣地区・着物文化）を普及していく必要がある。</li> <li>・ 京都の伝統文化やものづくりの更なるグローバル化が必要。</li> <li>・ もっと伝統文化に関するイベントを行う（行っているのであればもっと周知する）などして、伝統文化を活性化させる必要があると思う。</li> <li>・ 伝統工芸のインターンシップを開催したり、大学の講義に組み込んだりするのも良いと思う。</li> </ul>	4	B	<p>本市は、京都の独特の文化を支えてきた伝統産業を守り育てるため、製品の需要拡大や担い手不足の解消に向け、京都伝統産業ふれあい館の更なる魅力向上や、伝統産業製品の販売促進機能強化、伝統産業振興と障害者雇用との融合による「伝福連携」等に努めています。また、パリ市との相互交流による商品開発を行うなど、京都の伝統産業製品の販路拡大にも取り組んでいます。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
(6) 京都経済の活性化に関すること			
<b>【地域産業】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消についてたくさんの方が理解することが大事。</li> <li>地場産業を発展させる必要がある。</li> <li>地域の商店街、昔ながらのお店が連携し、地域の活性化につなげるべき。</li> <li>市内企業での担い手不足は、本当に深刻な問題だと思う。どのような対策があるのか。</li> </ul> <p>など</p>	8	B	地産地消や地域の商店街の活性化などを通じて、食料の地域での自給率を高めたり、地域でお金が回る仕組みをつくることなどにより、地域のレジリエンスが高まり、持続的発展につながる効果があると考えられます。今後も、「京都市地域企業の持続的発展の推進に関する条例」に基づき、市民の皆様へ地域企業を支える役割を担っていただくとともに、担い手の確保に向けた具体的な取組を推進してまいります。
<b>【雇用問題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少に対し、正規社員の就職がなかなかできない中、安定した収入が得られるようにすることが必要ではないか。</li> </ul>	1	B	本市では、行政・労働者団体・使用者団体の代表で構成する京都労働経済活力会議において正規雇用拡大・中小企業の担い手確保などの取組の方向性を確認しており、引き続きオール京都で取組を推進してまいります。
<b>【観光政策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客へのおもてなしを市民がもっと積極的にしてはどうか。</li> <li>電車とバスをうまく活用し、「住みやすい」「観光しやすい」「京都に来たら観光もあるが、常に新しいものもある」といった京都になってほしい。</li> <li>歴史あるイベントなどを廃止したら観光客なども減ってしまうからもっと活性化してほしい。</li> <li>オリンピックを見据えて、インバウンド消費の向上、観光消費、京都企業の振興に努めていくことが必要。</li> </ul>	4	B	本市では、観光による交流人口の増加に向け、「京都国際文化観光おもてなしコンシェルジュ制度」を創設し、市民ぐるみで受入環境整備を進めています。また、より奥深い京都の魅力を発信し、京都観光の満足度を高めていただくために、京都観光オフィシャルサイトの機能強化を行うなど、観光施策を推進しています。
<b>【観光客】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客と市民が同じ公共交通機関を使用することによる市民生活の圧迫が問題である。</li> <li>訪日外国人観光客に関する問題があらゆる所で噴出しているが、この点に関する記述が無いのはなぜか。</li> <li>観光客の危険行為がまちの課題だと思う。</li> </ul> <p>など</p>	15	A	本市では、京都観光振興計画2020+1において、市民生活と観光との調和の重視を掲げ、外国人観光客の急激な増加等による混雑やマナーの問題、民泊問題などに取り組んでいます。御意見を踏まえ、市民生活と観光が課題となっていることを第2章の「京都市におけるレジリエンスの課題」に記載するとともに、第3章の「各重点的取組分野におけるリーディング事業」の「3豊かに暮らせるまち」において、「市民と観光客の安心安全を確保するとともに、周辺住民の生活環境と調和した「民泊」の推進と京都らしい上質な宿泊環境の整備」について、記載しました。
<b>【中小企業支援】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>小さな会社の社員への教育支援が必要ではないか。ただし、市が行っている中小企業への経営支援は間違っている。金をやるから海外進出せよといっても無理である。</li> </ul>	1	B	海外展開支援につきましては、相談窓口を設置し、企業からの相談に応じているほか、ジェトロ京都事務所（京都貿易情報センター）等とも連携し、商談会やセミナー等も開催しております。今後も、オール京都で、地域企業に対する相談・支援体制を強化してまいります。
<b>【IoT等の活用やAI化】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>IoTやビッグデータの活用の視点がない。</li> <li>AI化が必要。</li> <li>AIは重要な要素である。デジタルで生み出された時間をアナログなことに使うことが重要。</li> </ul>	3	B	戦略本編の「京都経済の活性化に向けた課題」として、IoTやビッグデータについて記載しており、今後も社会情勢の変化に対応した取組を進めてまいります。
<b>【文化や経済とレジリエンス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「文化の継承」や「企業のニーズに応える十分な用地の確保」というレジリエンスと関係ない項目が入っている。</li> </ul>	1	B	「レジリエンス」は、自然災害などの突発的な危機への対応だけでなく、人口減少や少子高齢化、さらには文化や経済への悪影響など、様々な危機の相互関係を認識しつつ、横断的に対応することも含んだ考え方です。

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(7) 景観・町並み、空き家など住環境に関すること</p> <p>【空き家活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家や町家の民泊への活用は賛成できない。京都市民が利用できるような物を考えてほしい。</li> <li>・ 京都の町並みが好きで京都に引っ越してきたため、空き家の活用にもっと取り組んでほしい。</li> <li>・ 空き家や町家を学生向けにシェアすることで、景観の保全と活用につながるのではないか。</li> <li>・ 町家カフェは若い人は好きなので、もっと増やすことで空き家対策になるのではないか。</li> <li>・ 空き家が目立つので、会社の事務所や営業所を誘致してはどうか。</li> </ul> <p>など</p>	15	B	<p>空き家の増加は、防災、防犯、生活環境、景観保全、地域コミュニティの活力に悪影響を生じさせるとともに、まちの活力の低下につながるなど、まちづくりを進めるうえで大きな課題となり、都市のレジリエンスを低下させると認識しています。</p> <p>引き続き、「京都市空き家等対策計画」に基づき、「空き家の発生の予防」、「活用・流通の促進」、「適正な管理」、「跡地の活用」といった総合的な空き家対策を推進します。</p> <p>合わせて、京町家の多様な活用の展開を図り、京都らしい町並み景観の保全・継承を推進します。</p>
<p>【空き地活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベンチの設置等、民間空き地の活用。</li> <li>・ 空いている土地をもっと活用する必要がある。</li> </ul>	2	B	<p>市有地については、「京都市資産有効活用基本方針」を定め、最も効果的な活用方法について検討、推進していくこととしています。</p> <p>民有地等については、所有者の意向によるところが大きいいため、今後の課題として取り組んでまいります。</p>
<p>【景観・町並み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に住んでみると、思ったより古い町並みが見られない。</li> <li>・ ホテルが増えすぎて、京都らしさが失われ、住みにくいまちになってきている。</li> <li>・ 京都の景観や町並みを守るのであれば、歓楽街などは徹底的に排除すべきだと思う。</li> </ul>	3	B	<p>本市では、美しい景観、歴史的な町並みを保全・創出し、都市活動の多様な分野にプラスの効果を発揮することを目的とし、「新景観政策」に基づく取組を推進しております。社会経済情勢の変化を勘案しつつ、優れた景観を保全・再生させるだけでなく、新たに創造することを目指し、絶えず進化させることで、本市のレジリエンスの向上に寄与しております。</p>
<p>【都市計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画の際には、都市の課題（将来の危機）を想定しなくてはならない。</li> <li>・ コンパクトシティとレジリエンスの連携が必要。</li> <li>・ 高さ制限の緩和は、ビジネス環境をよくするという視点では大切なかもしれないが、今より住みたいまちになるとは思えず、京都の魅力が半減すると思う。</li> <li>・ 土砂災害の恐れのある集落についての在り方を検討することも必要ではないか。</li> </ul> <p>など</p>	5	B	<p>人口減少社会が到来し、今後、本市においても、一定の人口減少及び少子高齢化が避けられない状況の中、将来にわたって暮らしやすく、魅力と活力のある持続可能な都市の構築は、都市のレジリエンスの向上に寄与するものであり、その具体的な方針を示すとともに、より適正な土地利用の誘導等を進めるための「京都市持続可能な都市構築プラン」を策定する予定です。</p> <p>また、高さ規制を含めた景観政策については、現在、「新景観政策の更なる進化検討委員会」において、京都の景観の守るべき骨格は堅持するという基本的な考え方のもと、議論を進めているところです。</p> <p>社会経済状況の変化にも柔軟に対応しながら、適正な土地利用の誘導等を図ることで、京都ならではの歴史・文化を継承するとともに、多様な地域の魅力・活力の維持・向上を目指し、「レジリエント・シティ」の実現につなげます。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p><b>【自然との共生】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京都の観光資源や景観は京都の豊かな自然資本の恩恵があって成り立っていると思うが、課題認識が薄いと思う。京都のレジリエンスに自然がどう関わるのか、総論としてきちんと書いておくべきではないか。</li> <li>景観の保全に関する点がレジリエンスとどのように関連性を有するのかが理解できず、むしろこじつけのようにすら感じる。</li> <li>政策の融合を進めるといふなら、文化を守り育てる観点から自然保護を啓発するとか、文化サイドから貢献するような事業が考えられるのではないか。</li> </ul>	3	A	<p>京都らしく美しい森林と豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために、本市では、「京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン」を平成23年5月に策定しました。このガイドラインに基づき、本市所管地における古都三山保全・再生事業として、森林景観の再生や良好な森林環境の維持に向けた管理道の整備などを進めています。また、都市のレジリエンスが、周囲の自然、ひいては地球環境とも影響しあっている趣旨の説明を追記しました。</p>
<p><b>【森林保全】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林保全において、材としての活用が見込めない杉植林等の放置を抑制するため、主伐・皆伐による更新と樹種の変更を思い切って進めるべき。稼ぐ林からまちを守る林への転換が必要。</li> </ul>	1	B	<p>本市では、景観・防災上重要な区域のナラ枯れ跡地の復旧や生態系等に配慮した森づくり、森林資源の持続的利用に努めるなど、森林保全に取り組んできました。また、林業による管理が見込めない杉林などの人工林については、生物多様性の保全、京都の文化の持続・発展、景観の保全、災害の防止といった森林の公益的機能を最大限発揮できるよう、森林経営管理法の施行も踏まえ、管理・保全を推進してまいります。</p>
<p><b>【グリーンインフラ、雨庭】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域雨庭化推進は、市民や企業、団体とともに、各局区等の連携の恰好のテーマであり、6つ全部の分野に貢献可能である。</li> <li>インフラ整備にグリーンインフラの概念も取り入れるべき。公共民間問わず、市内各所に雨庭整備を。そして、地域主体で草花を育成管理をしてもらい、地域の絆づくりにしてもらおう。</li> </ul>	2	B	<p>雨庭事業は、京都ならではの庭園文化を活かすことができるとともに、雨水流出を抑制して排水溝などの氾濫を抑制し、ヒートアイランド対策にもつながり、まちなかの貴重な癒しの空間となる取組です。また、雨庭の維持管理は、地域の皆様に協力を依頼しており、地域コミュニティの活性化にも貢献するなど、本市のレジリエンス向上につながります。今後、関連部局とも連携しつつ、整備を進めてまいります。</p>
<p><b>【民泊】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民泊の急増に危機感がある。地域の町内会がなりたたなくなり、安全面でも怖い。</li> <li>京都市での民泊に対する圧迫は、住民の生活環境を守る意味はあるだろうが、一方で、自身の家などの資源を活かして国際交流しようとしたり、稼ごうとしたりする市民の前向きなマインドを摘んでしまう結果になっていないか。</li> </ul>	2	B	<p>本市では、市民と観光客の安全安心を損ない、地域住民の生活環境を脅かす違法不適切な「民泊」は断じて許さないという強い決意の下、徹底した対策を進めております。「民泊」の適正な運営については、法律の範囲内で、最も厳しいと言われる条例など実効性の高い本市独自のルールを定め、「民泊通報・相談窓口」等に寄せられた情報を基に、違法不適切な「民泊」の適正化指導を強力に進め、市民と観光客の安全安心及び地域住民により培われてきた生活環境の確保に取り組んでおります。今後とも、違法不適切な「民泊」の根絶に向けた取組を強力に進めるとともに、宿泊施設の適正な運営がなされるよう、事業者の自主的な活動の推進やモラルの向上を図る取組を一層進め、地域住民と事業者の調和が図られた京都らしい良質な宿泊施設の拡充を進めてまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p><b>【北部山間地域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市域が広く、その中には高齢者が多い地域や人口が少なく行政との距離が遠い地域もあると思う。それでも都市機能を維持するための策を明記してほしい。</li> <li>北部山間地域などへの投資も必要である。</li> </ul>	2	B	<p>北部山間地域の人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって住み続けることができるよう、これまでから、道路、交通、光ファイバを利用したインターネット環境の整備促進、地域水道等のインフラ整備をはじめ、地域の生活支援、農林業の振興による就労の創出、学校教育環境の整備など北部山間地域の振興策に取り組んでおり、いただいた御意見を踏まえ、引き続き取り組んでまいります。</p>
<p><b>【無電柱化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無電柱化の早期実現・実施。</li> <li>町中に電柱が多すぎる。</li> </ul>	2	B	<p>都市災害の防止、都市景観の向上、安全で快適な歩行空間確保のために、無電柱化事業は重要であると認識しており、引き続き推進してまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<b>(8) 環境共生や脱炭素社会に関すること</b>			
<b>【温暖化対策】</b> ・ CO <sub>2</sub> 削減は、何年も前から言われているが、実際にどれぐらい削減されているのか分からない。	1	B	本市では、2020年度までに1990年度のCO <sub>2</sub> 排出量（783万トン）から25%削減するという目標を掲げており、市民・事業者の皆様の御協力により、2009年度の排出量は622万トンと、20.6%削減できていました。しかしながら、東日本大震災後、CO <sub>2</sub> 排出量が多い火力発電に依存した電源構成へ大きく変化したため、2012年度は800万トンと、2.1%増加しました。そうした状況ではありますが、市民・事業者の皆様の一層の省エネや節電等の取組により、2013年以降のCO <sub>2</sub> 排出量は減少し、最新実績である2016年度は、1990年度に比べて国が依然として約3%増加となっている中、752万トンと、3.9%削減することができています。引き続き、着実な温室効果ガス削減ができるよう努めてまいります。
<b>【エネルギーの自給】</b> ・ エネルギー利用を海外での生産に頼りきっている感があるので、ずっとまちとしてやっていくためには、もう少しエネルギー自給率を上げるような政策が必要ではないか。 ・ エネルギーは自然から搾取するのではなく自然から力をもらうもの。再エネルギーの取組も重要である。	2	B	再生可能エネルギーなどの分散型で多様なエネルギーの自給を進めることは、災害に強く環境にやさしい「レジリエント・シティ」の実現につながります。引き続き、「京都市エネルギー政策推進のための戦略」に基づき、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及等に取り組んでまいります。
<b>【ごみ】</b> ・ 資源ゴミの仕分けなど全くしなくてよく、住人は自由にゴミを捨てているマンションもある。京都市のルールを適用させるべきではないか。 ・ まちなかにゴミが多い。自治会や町内会がもっと呼びかけ、ゴミ拾いのイベントを行うボランティア団体をつくるべき。	2	B	ごみの発生抑制や分別・リサイクルなどの取組により、資源・エネルギーの有効利用や環境負荷の低減を図ることは、持続可能な循環型社会、すなわち「レジリエント・シティ」の実現につながります。引き続き、市民や事業者の皆様との協働により、ごみの減量やまちの美化に取り組んでまいります。
<b>(9) 公共交通や自転車政策に関すること</b>			
<b>【公共交通】</b> ・ 交通機関の輸送力不足や道路渋滞に関して、早急になんとかして欲しい。 ・ 交通の整備（公共交通、渋滞）は課題だと思う。  など	17	B	公共交通は、市民の皆様暮らしやまちの活動を支える主要インフラであり、その利用促進を図っていくことが「レジリエント・シティ」の実現につながると考えております。引き続き、安全・安心、快適に御利用いただけるよう、取組を進めてまいります。
<b>【自転車政策】</b> ・ 自転車が通ることで歩行者の安全が脅かされるのは間違っている。自転車について改善できたら安全なまちにつながる。	2	B	自転車は手軽で快適で環境にやさしい乗り物ですが、使い方によっては危険な乗り物となります。そのため、ルール・マナーを「見える化」し、市民の皆様への啓発を進めております。快適で安心・安全、誰もがいきいきと暮らせる「レジリエント・シティ」の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p>(10) その他の課題や方向性、取組に関すること</p> <p><b>【働き方改革】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害に備えるための余裕がない。仕事、生活でいっぱい。</li> <li>・ 親は毎日の生活に追われ、子供が本来の子供の遊びを知らない。お金では買えない心の豊かさを持ち合わせていない。</li> <li>・ 働きながら子育てをしている若い世帯が圧倒的に多い現状で、地域との関わりを持って欲しいと望むことは非常に困難。</li> </ul>	3	B	<p>少子高齢化や人口減少社会が急速に進展する中、長時間労働を前提とした働き方の見直しなどの働き方改革を推進することで、災害への備えや、家庭生活、地域活動等の両立が可能になることは、個人、企業・組織、社会全体のレジリエンスを高める観点でも非常に重要であるため、経済団体等と連携し、京の企業働き方改革総実践プロジェクトを推進するなど、引き続き取組を進めてまいります。</p>
<p><b>【学区等の見直し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世話人が確保できないなど、従来の学区単位での活動が限界に達している。住民の構成方法の見直しに向け、人口の少ない町内を併合するか、学区や町内の境界線を引き直すなどして、基盤を固めるべきである。</li> </ul>	1	C	<p>自治会・町内会等のコミュニティで日々取り組まれている、地域の事情に応じた様々な取組が、安心安全で住みやすい地域をつくり、「地域のレジリエンス」につながっていると考えております。</p> <p>そのための学区や町内の境界については、そこに住む住民の皆様のご意識や考え方がまずは大事であると考えております。いただいた御意見については、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>
<p><b>【財政】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民税や観光税、寄付金を利用するなどして、様々な取組を財政面で支援してはどうか。</li> <li>・ 課題解決のためには、費用や経費、人材などが必要以上にかかるのではないかと。</li> <li>・ 防災施設等の整備に係る予算確保、人材確保が必要。</li> <li>・ ハード面の整備において、予算の確保が問題となることが考えられるため、予算確保に向けた国への予算要求等を弾力的にバックアップ・支援していくことが必要。</li> <li>・ 財政の健全化も課題であると考えているが、予算確保に向けてどのような対策をとっているのか。</li> </ul> <p>など</p>	9	B	<p>「レジリエント・シティ」の実現には、限りある資源を真に必要な施策に投入していくことが必要不可欠であり、厳しい財政状況の中、行財政改革の徹底により財源を捻出し、課題の解決に取り組むとともに、成長戦略を積極的に推進しております。</p> <p>本戦略の策定を機に、本市のすべての政策に「レジリエンス」の視点を行きわたらせ、継続的に点検・強化しつつ取り組んでまいります。</p>
<p><b>【課題や方向性、取組全般】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然災害、人口減少や京都経済の活性化など、大きな課題であることは理解できる。</li> <li>・ 課題が明確に提示されていてわかりやすい。</li> <li>・ まとまっていて参考になる。</li> <li>・ 様々な課題を単一的に考えるのではなく、大きな枠組みでとらえることで、一つの取組を全体に波及できる可能性がある。</li> <li>・ 災害への対策は政令指定都市の中でも強いと思う。引き続きがんばってほしい。</li> <li>・ 取組内容については、方向性も適切であり、良いものであると思う。</li> <li>・ 人口減少や文化の継承など様々な取組を行っていて良いと思う。</li> <li>・ 既存の取組を充実させていくことは大事だと思う。</li> </ul> <p>など</p>	49	B	<p>課題は、平成29年2月に、地域団体、企業、NPO等からの幅広い参加により実施した、アジェンダセッティング（課題設定）・ワークショップにおける御意見や、市民や有識者の皆様等との対話やアンケート等の結果などから、本市において特に重要と考えられるものを抽出しております。</p> <p>都市の「レジリエンス」を考えるにあたっては、様々な課題の相互関係を認識することが重要であり、本市のすべての政策に「レジリエンス」の視点を行きわたらせ、継続的に点検・強化することがとりわけ重要と考えております。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p><b>【課題相互のつながり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レジリエンスはなんでもありなので情報量が多すぎる。人口減少、自然災害、地域コミュニティ、生活環境など分野を絞って紹介した方が理解しやすい。</li> <li>課題が広すぎて、自分ごととして捉えにくい。</li> </ul> <p>など</p>	8	A	<p>課題は、平成29年2月に、地域団体、企業、NPO等からの幅広い参加により実施した、アジェンダセッティング（課題設定）・ワークショップにおける御意見や、市民や有識者の皆様等との対話やアンケート等の結果などから、本市において特に重要と考えられるものを抽出しております。</p> <p>都市の「レジリエンス」を考えるにあたっては、幅広い様々な課題を俯瞰しつつ、相互関係を認識することが重要であり、説明を追記しました。</p>
<p><b>【具体的な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちが身近に取り組んでいけることを知りたい。</li> <li>内容が抽象的で分かりにくい。</li> <li>細かい説明は不要なので、具体的に何をすれば良いかを示してほしい。</li> <li>市民に協力を求めるものであるなら、もっと市民がすべき取組や行動指針を具体的に記載すべきではないか。</li> </ul> <p>など</p>	29	A	<p>食料・水の備蓄や文化活動、ボランティア活動への参加など、個人や家庭、地域や企業等の普段の何気ない行動が、実は「レジリエンス」につながっていることがあり、意識して取り組むことによって更に効果が上がると考えております。</p> <p>市民の皆様の気付きにつながるよう、具体的な取組例を追記しました。</p>
<p><b>【分野相互のつながり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略というなら既存の施策でもそれを貫く新しい考え方が明示されないと、分野ごとに個別バラバラの単なる施策の寄せ集めに見える。</li> <li>「行政分野を超えた政策の融合」とあるが、それぞれの重点的取組分野が相互にどう関係しているのか書いてない。それぞれの分野が相互にどんな関係を持っているのか、図示するなど戦略に分かりやすく書くべきでは。</li> <li>北欧、ヨーロッパは、人々が色々なことに関心を持っているし、文化とスポーツが人々とリンクしている。京都も、「文化」「伝統」「災害」などを結び付けて取り組んでほしい。</li> <li>重点的取組分野が6つあがっているが、どう関係しているのか分かりにくい。</li> </ul>	4	A	<p>「レジリエント・シティ」の実現には、リーディング事業として掲げている個々の事業の進ちょくそのものよりも、本市のすべての政策に「レジリエンス」の視点を行きわたらせ、継続的に点検・強化することがとりわけ重要と考えております。</p> <p>そのためには、個々の重点的取組分野ごとに個別バラバラに施策を推進するのではなく、それぞれの分野の相互関係を認識しつつ、分野を超えた政策の融合が必要であり、それを分かりやすく示すように追記しました。</p>
<p><b>【リーディング事業、検討案】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リーディング事業と更なる取組の検討案は何が違うのか。</li> <li>リーディング事業が、既存事業の寄せ集めで今回の戦略を策定するに当たっての具体的な政策がない。</li> <li>レジリエンス戦略としての具体的な取組は何か。既存計画を視点を変えて寄せ集めただけにしが見えない。</li> </ul>	3	A	<p>「リーディング事業」は、既存事業のうち、レジリエンスの視点から、他の取組を先導する役割が期待できる施策・事業であり、「検討案」は本市のレジリエンスをより一層高めるうえで効果的と考えられる施策・事業を具体例として記載しているものです。</p> <p>「レジリエント・シティ」の実現には、リーディング事業として掲げている個々の事業の進ちょくそのものよりも、本市のすべての政策に「レジリエンスの視点」を行きわたらせ、継続的に点検・強化することがとりわけ重要と考えております。</p> <p>各リーディング事業に取り組むことにより、どのような効果が期待できるのか、どのような未来を描くことができるのかといった内容を「リーディング事業に掲載する意義」として追記しました。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<p><b>【各分野の施策の進め方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な新たな事業を展開するのではなく、レジリエンスの意識を持って各分野の施策を進めるというイメージでよいか。</li> </ul>	1	B	<p>「レジリエント・シティ」の実現には、リーディング事業として掲げている個々の事業の進捗よりそのものよりも、本市のすべての政策に「レジリエンス」の視点を行きわたらせ、継続的に点検・強化することがとりわけ重要と考えております。</p>
<p><b>【心のレジリエンス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な課題も大事だが、精神的な強さのような抽象的な課題も重要ではないか。</li> <li>心のレジリエンスが大切である。</li> </ul>	2	B	<p>「レジリエント・シティ」の実現に向けては、市民の皆様一人一人がそれぞれの「レジリエンス」を育んでいくことが必要不可欠であり、今後も、あらゆる機会を捉えて、「レジリエンス」の理念の普及に努めてまいります。</p>
<p><b>【課題の抽出方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ありきたりなものとなっているのが少し残念である。もう少し独自のデータや調査に基づくものであれば説得力も増したのではないかと思う。</li> <li>課題を抽出するのに、リスク評価を行っていると思うが公表してほしい。</li> </ul>	2	B	<p>課題は、平成29年2月に、地域団体、企業、NPO等からの幅広い参加により実施した、アジェンダセッティング（課題設定）・ワークショップにおける御意見や、市民や有識者の皆様等との対話やアンケート等の結果などから、本市において特に重要と考えられるものを抽出しております。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<b>4 レジリエンス戦略の今後の進め方について</b>			
(1) 市民等との協働に関すること			
<b>【市民等との協働】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期にわたる取組であるので、多くの市民と議論を継続的に行って、随時ブラッシュアップを図っていくべきだと思う。</li> <li>・ 様々なワークショップによる情報収集や情報交換で、新しいアイデアを生み出すべき。</li> <li>・ 問題になっている事を互いに意見を出し合うことから始めると良いのではないかな。</li> </ul> <p>など</p>	26	B	「レジリエント・シティ」の実現のためには、行政の取組のみならず、市民の皆様の「自分ごと」「みんなごと」としての取組が不可欠です。今後とも、「レジリエンス」の理念の普及に努めるとともに、市民の皆様と行政が一体となって取組を進めてまいります。
<b>【国や京都府等との連携】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリア毎の対策だけではなく、府や国レベルでの対策を考える必要がある。</li> <li>・ 関西や日本全体に「レジリエント・シティ」の取組を波及させることで、どのようになっているかに注目したい。</li> <li>・ 京都の人たちだけでなく、京都以外の人との協力が必要。</li> </ul> <p>など</p>	11	B	国内におけるレジリエント・シティの普及・拡大が進むことで、将来にわたって人々がいきいきと暮らせる国となることにつながるため、国、京都府、各市町村との連携を図ってまいります。
<b>【海外都市等との連携】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レジリエンス戦略を日本国内だけでなく、いずれは世界規模で実現してほしい。</li> <li>・ 同じような課題を抱える国同士が連携し、世界規模でレジリエンス戦略を広げる方が良いと思う。</li> <li>・ 京都の知名度を考えると海外からの協力は得られやすいのではないかな。</li> </ul>	3	B	世界規模でのレジリエント・シティの普及に貢献するため、100RC選定都市や本市の姉妹都市等との連携や情報共有を図りながら、本市の取組を広く発信する等の取組を進めてまいります。

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
(2) 本市の推進体制に関すること			
<p>【行財政改革】 より一層の行財政改革を行うことに賛成である。</p>	1	B	<p>「レジリエント・シティ」の実現には、限りある資源を真に必要な施策に投入していくことが必要不可欠であり、本市のすべての政策に「レジリエンス」の視点を行きわたらせ、継続的に点検・強化しつつ取り組んでまいります。</p>
<p>【職員の副業】 行財政改革と働き方改革をセットで推進するという方向は良い。職員が家事育児や地域活動など、様々な活動に参画し、視野を広げる機会を増やすことは、京都市の政策を充実させることにつながるのでは。 神戸市や生駒市のように、職員の副業も推進していくべきではないか。</p>	1	C	<p>本市ではこれまでから、スポーツ振興に係る指導員や伝統芸能、大学講師等、社会貢献・地域貢献に係るものの許可をしておりますが、先行き不透明な社会においては、職員が様々な活動に参画して視野を広げ、新しい発想を取り入れることは、本市のレジリエンスを高めていくうえで極めて重要であると考えております。 引き続き、本市の職員力及び組織力の更なる向上につながるよう、いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>【他の政策の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レジリエンス戦略はかなりの長期の計画であるが、紐づいている他の計画はせいぜい5年程度のもが多いと思う。これで長期的なレジリエンスが達成できるのか非常に疑問。他の計画を見直す必要があるのではないか。</li> <li>・ レジリエンス戦略策定を受けて、来年度以降、当然レジリエンスを意識して作られていない他の計画の中身や成果指標の見直しを進めていくという理解でよいか。</li> <li>・ 具体的な施策にどう結びつけていくかが大切だと思う。</li> <li>・ あらゆる政策にどうやっていきわたらせるかを考える必要がある。</li> <li>・ レジリエンス戦略策定を機に、市政や府政の充実を希望する。</li> </ul> <p>など</p>	10	B	<p>「レジリエント・シティ」の実現には、リーディング事業として掲げている個々の事業の進ちょくよりも、本市のすべての政策に「レジリエンス」の視点を行きわたらせ、継続的に点検・強化することがとりわけ重要と考えております。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
(3) 進行管理に関する事			
<p>【進行管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何十年にもわたる戦略であるなら、曖昧な記載や他の計画に任せるだけでなく年度ごとの具体策を示すべきだ。どういう施策をしてどうなるのか、これを年次ごとに示すべき。</li> <li>・ 数が多すぎて全体としてどうなっているのかつかめない。レジリエンスを図るうえでの特徴的な(独自の)指標・目標値を示してどの程度レジリエンスが進捗しているのか、もしくは後退しているのかを毎年公開してほしい。類似の国内外の他都市との比較があればなおよい。</li> <li>・ 取組に対する評価をどのように行うのか、具体的に知りたい。</li> <li>・ 達成目標の見える化が必要と思う。この戦略を進めることで、良いまちになってほしい。</li> <li>・ 具体的な数値目標を定めるなどしないと、枠組みを決めただけで終わってしまうと思う。</li> <li>・ 継続してレジリエンスの精神を啓発していくことが大切で、他のプランのように、役所がその進捗率を検証、公表したり、10年後の実績を総括するといった類のものではなく、「真の市民の戦略」となるよう進めていただきたい。</li> </ul> <p>など</p>	21	B	<p>「レジリエント・シティ」の実現には、リーディング事業として掲げている個々の事業の進捗よりも、本市のすべての政策に「レジリエンス」の視点を行きわたらせ、継続的に点検・強化することがとりわけ重要と考えております。</p> <p>実質的な「レジリエンス」の向上を定量的に評価することは困難ですが、達成状況をお示しする方法については、検討してまいります。</p>

御意見要旨	件数	区分	本市の考え方
<b>5 その他</b> <b>【その他】</b> ・ 嵯峨野山陰線の本数が少なく、電車内が込み合うので何とかしてほしい。 ・ 最低賃金の引き上げが重要であると思う。 ・ 公営住宅の家賃を下げる。  など	54	C	いただいた御意見については、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。